

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

新吉田地域ケアプラザ

■ 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行ったのか、具体的に記載してください。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

地域の現状と課題について

担当 2 地区とも隣近所のお付き合いや見守りが残っており、様々な活動や行事も活発で、地域の力を感じる地域です。共通の課題として定年退職後の男性が地域の活動に参加されている方が少なく、地区活動の次世代の担い手の確保があります。これからますます増えるといわれている認知症高齢者への取り組みとして、2 地区合同の徘徊高齢者ネットワーク“さがしてネット”の活動があります。中学生にも支援者となってもらえるよう、新吉田あすなる地区社会福祉協議会の方々と中学 1 年生を対象とした認知症サポート養成講座を取り組んで 3 年目となります。地域にはキャラバンメイトが数多くいらっしゃり、地域にある企業や店舗などで開催する認知症サポーター養成講座等で活躍されています。年 1 回実施する 2 地区合同さがしてネット模擬訓練では認知症の関するチラシを配布する等を担い、積極的に啓発活動に参加されています。また、今年度は、2 地区合同で地域のチカラ応援事業の補助金を申請して拠点プレートを作成しました。地域の中に 200 以上の拠点プレートが掲げられ、新吉田地域全体で認知症高齢者の理解への取り組みがなされていることがわかり、認知症高齢者の理解について意識の高い地域と言えます。これらの取り組みが功を奏しているのか、地域の方が認知症徘徊高齢者を見かけた際に、地域の方からダイレクトにケアプラザにご連絡いただき、ケアプラザが持つ情報でご自宅に戻れるケースが増えております。

新吉田地域在住の 65 歳と 75 歳の方の健康とくらしの調査結果で、65 歳ではあまり高くない数値が、75 歳の方の調査結果では区域、市域の数値より高くなっている 1 年間に 1 回以上転倒した割合、運動機能低下により不安を感じる割合という調査結果があります。この調査結果からも地域の介護予防の取り組みは必要と考えられますが、介護予防活動の会場となりうる町内会館等が偏在していることやケアプラザの利便性が悪いこと、高齢者の徒歩圏内にバス停や駅等がなく、公共交通機関も利用しづらい環境があり、介護予防活動に参加したくても参加できない高齢者いることが推察されています。身近な場所での介護予防活動の取り組み、その取り組みに参加しやすい、会場の発掘や移動手段、ケアプラザの利便性を高める工夫が必要と考えます。今年度は地域にある企業や店舗等への地域貢献についてのアンケートを実施しました。その結果概ねが様々な形で地域貢献については、前向きなお考えであることが把握することができました。この結果等をもとに、施設が実施している、新羽駅から施設までの送迎について地域に活用できないか、施設と地域の方々とケアプラザで次年度より検討していくことになった。

(1) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

- ・地域の様々な会議等に積極的に参加して、地区の状況やニーズ把握、情報発信に努めました。関係機関との連携を図り、地域ケアプラザは地域の身近な相談場所であり、対象幅広く相談対応している周知に努めました。
- ・地区が取り組む活動に積極的に参加しその支援を通して、地域ケアプラザの機能、役割を周知し、支援が必要な方を早期発見、迅速に必要な支援が届けられるよう、その協力をしてもらえよう依頼しました。
- ・広報紙の内容の充実やわかりやすいチラシの作成を心がけ、その配布、掲示依頼を地域のある医院やコンビニ、商店、薬局などへ依頼して、地域ケアプラザの業務をわかりやすく地域に周知できるよう取り組みました。
- ・ブログを約70回、ホームページ15回47項目以上の更新を行い、より幅広い層への情報の発信に努めました。
- ・担当2地区の高齢者徘徊ネットワークさがしてネットを通して、地域の方から直接ケアプラザへのご連絡が増えてきております。

(2) 各事業の連携

- ・包括支援センターと地域活動交流部門のそれぞれが把握した情報や課題の共有に努めました。個別の課題解決に地域のインフォーマルサービスである、ほっと新吉田やみらい等地域の活動団体への調整をしました。また、今年度地域活動交流事業の自主事業である”上手な花の育て方“から、当デイサービスご利用者様とお花を育て楽しむ、ボランティアグループが立ち上がりました。体操リーダー養成講座では、高齢者に体操を指導する実習が、デイサービスで実施されました。
- ・包括支援センターの個別支援の情報共有の場面に生活支援コーディネーターが同席し個別支援を通して共通する地域の課題の把握に努めました。要支援認定の方のホームヘルプサービスやデイサービスの利用がしづらくなっている現状を把握し、包括レベルの地域ケア会議の課題から生活支援体制整備協議体のテーマへ繋げ、地域の方々と現状の共有ができた。
- ・運営協議会や包括レベル地域ケア会議で抽出された課題である、お食事つき介護予防サロンはつつ俱樂部について、介護保険事業を含めたケアプラザ5部門が連携し、ボランティア活動の協力の下今年度も実施して、毎回約12人の方が参加しました。
- ・デイサービス生活相談員が、生活支援コーディネーターと連携して地域の介護予防講座でコグニサイズの講師を担いました
- ・地域包括支援センターと居宅介護支援地業所と地域の老人保健施設が連携して、地域の施設見学会を今年も開催しました。また、地域の民生委員とケアマネジャーの交流会を開催しました。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- ・ 地域包括支援センター保健師職が1年間空席であったが、主に保健師職が担う介護予防の取り組みについては、所長（看護師）と生活支援コーディネーターが中心になり、他職種も協力して業務を担いました。
- ・ 年間研修計画に基づき各部門で研修を実施して、人材の育成に努めました。
- ・ 法人の目標達成プランの下人材育成に努めました。
- ・ 各職種を活かしチームで業務に当たる方針を示し、毎朝、包括支援センター3職種と生活支援コーディネーターが個別ケースの課題共有する機会を持った。毎月、気になる事例について、所長も含めた情報共有の場、職員会議、部門会議等で、情報共有し各専門職の事業もチームで取り組んでいるため、他専門職種の意見に耳を傾ける姿勢ができています。
- ・ 部門別アンケート等の実施を通して、その業務の公正・中立性について繰り返し、振り返りの機会を持ちその意識を高めました。
- ・ 総合相談等ケアプラザ業務は、常に相談者（ご利用者）の立場に立ち、相談者（ご利用者）の意思及び人格を尊重し提供されるサービス等が特定な事業者に不当に偏ることがないことを意識した支援に努めました。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

- ・ 地域の関係団体や関係機関と情報交換や定期的な会合等を通じて、ネットワーク強化に努めました。
- ・ 連合町内会会合・地区民生児童委員協議会会合、地域活動ボランティア団体の会等地域の様々会合に参加し情報交換をしました。
- ・ 保健活動推進員に測定会等、地域の様々な活動に出向いて、その情報収集と支援をしました。
- ・ 中学1年生を対象とした中学校での認知症サポーター養成講座の開催や盲導犬センター協力による福祉教育等を通して地域の中学校・小学校とのネットワークの強化に努めました。
- ・ 地域に数多くある福祉施設に地域貢献に関する意見交換の場を持ちました。
- ・ 港北医師会の在宅医療部会に参加し情報共有しその連携強化に努めました。
- ・ 区職員（毎月）・区社協（年4回）との定期的な情報共有する機会を持ちました。
- ・ 地域にある大型店舗、商店、コンビニ、企業等に地域貢献に関するアンケートの実施を通してネットワークの構築に努めました。

(5) 区行政との協働

地域支援について、2～3年で担当が変わる区職員と地域ケアプラザ職員との間に、課題の把握、課題解決に向けての手法や支援方法についての考え方に相違を感じる1年であった。その話し合いの中で、ケアプラザ職員は意見が言いづらい環境が一部にあり協働に課題を感じました。地域ケアプラザ主催で、高齢障害支援区職員は毎月、その他区職員とは4半期に1回情報共有、意見交換の場を設けました。高齢障害支援区職員とは、個別ケースを通して、情報共有しやすくその対応等協働して取り組むことがあったが、その他区職員とは課題が続いています。

地域ケアプラザは地域の身近な相談者として高齢者、子ども等対象を問わずまずは地域の中の身近な相談できる場として、まずは相談を受け止めるという役割がありますが、特に子ども家庭支援の区職員とは情報共有にさえにも課題を感じます。区行政と協働するにあたって、役割分担についても効果的な役割分担というよりも、区職員の意向に沿った役割分担とすることがしばしばあり、年間347日間開館している地域ケアプラザの担当職員の業務負担の軽減を講じる必要性がありました。

地区福祉保健計画推進では、各地区の特性を踏まえた支援という事を理解したうえで、各地区の担当区職員の取り組みスタンスの違いに、両地区を担当している地域ケアプラザはその対応に困惑しました。

地域ケアプラザはその業務について区職員より、事業実績評価の中で評価をされ、コメントをいただいています。一昨年のコメントの一部について、今回は表現を工夫してほしい（担当職員の士気が上がるような）と依頼しました。しかし、今年度のコメントにも課題を感じている現状があります。

地域支援に向けて、効果的な役割分担の下、区職員と協働して取り組むには、まずは、区職員に地域ケアプラザの機能、役割、業務の現状等について、理解を深めてもらう取り組みが必要であったと振り返ります。担当2地区福祉保健計画の推進に向けて地域ケアプラザはどのような姿勢で取り組んでいるのか、各職員が区職員にしっかりと伝えられることが大切であり、サポートスタッフ会議への参加等も地域ケアプラザが参加する意義を、まずは地域ケアプラザが職員間で十分に理解を深め、その役割を担う有効性を各職員が十分に理解したうえでその役割を担い、根拠を明確に持って業務にあたることで、効果的な地域支援、有効な区行政との協働に繋がると考えます。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

計画した5本柱に沿って、事業展開を行いました。継続的に繰り返し行うことで地域の中にケアプラザの事業として位置づけられるよう心がけて展開した。

1. 高齢者支援 転倒骨折予防教室「さわやかクラブ」・男の料理教室・粋な男の健康講座、丘の上の交流会、はつらつ倶楽部
2. 子育て支援 子育てフリースペース「はぐピョン」
3. 障がい者支援 学齢期障がい児余暇支援（こうほくからふる・こうほくなつとも）
4. ボランティア支援 体操ボランティア講習会・お話し会ワークショップ
盲導犬に会いに行こう・

5.地域支援

丘の上の音楽会・丘の上の交流会

上手な花の育て方

生活のしづらさを考えるシリーズ（成年後見）

地域の施設見学会

コグニサイズ研修

以上5本柱に沿った自主企画事業を企画し計画通りに実施いたしました。

(2)福祉保健活動団体等が活動する場の提供

ケアプラザと法人が共催して行うお祭りの運営の協力などお願いし、快くお引き受けいただきました。ケアプラザを貸館等でご利用いただいている方が個人で所属している趣味活動のグループなどもケアプラザの事業等へご協力いただき福祉活動への理解が深まるように働きかけを行いました。活動団体などの協力により地域向けの自主事業“丘の上音楽会”を年間4回、近隣福祉施設との交流を兼ねた“丘の上の交流会”を7回、開催することができました。

(3)ボランティアの育成及びコーディネート

自主企画事業としてボランティア育成目的の講座を開催し、ボランティア活動へのお誘いを行いました。上手な花の育て方講座は新たなボランティアグループを立ち上げることが出来、おはなし会ワークショップでは読み聞かせボランティアの活動へとつなぐことができました。また、広報誌等でボランティア募集の周知を行いお問い合わせをいただく等、ボランティア活動を広げる取り組みも引き続き行いました。さらに、貸館利用の方やデイサービスご利用者のご家族などの趣味活動がボランティアへつながるように働きかけを行い、デイサービスやケアプラザ自主事業の場でボランティア協力をしていただくことができました。

(4)福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

地区社協が運営する「ボランティアセンターやすらぎの家」の運営会議や、地域のボランティア団体「ほっと新吉田」の役員会に定期的に参加し情報収集を行いました。会の抱える課題や、その時々々の困難な出来事に対しアドバイスをしたり共感したりすることができました。また、地区内にある高齢者の体操、サロン、子育てを支援する場へも積極的に出向き、ケアプラザの行事やその時々々のトピックスなどを情報提供するとともに、これから起こりうる課題なども感じながら支援いたしました。

ひっとプランは第3期の推進となり、推進のための会議の場でもサポートスタッフとしての情報収集・情報提供し、活動支援いたしました。

広報誌は、引き続き地区の回覧板で回覧のご協力をいただき多くの方に見て頂けるよう見やすい紙面や印象に残るチラシ作りに努めました。また、ブログ、Twitter、facebook、区の広報、インターネット新聞など、様々な情報媒体も活用いたしました。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

毎月のケアプラザ内での5職種での会議や四半期に1回の区・区社協との会議で情報交換の機会を持つことができた。ケアプラザ内での会議ではデータからわかる内容にとどまらず、地域の方々とのやり取りから感じる課題や地域の方々の気持ち・関係性など様々な角度から得られる情報について共有することができた。また、それらの機会支援の方向性を共有しておくことで発言の声大きい方、ご自身の想いと地域の動きが一致しない方などと情報交換する時に職員の対応の統一性を持たせたり、一人での対応が難しいときに複数人でお答えすることができた。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

個別ニーズからの課題把握に向けて、四半期1期分の集計を行いました。相談員が感じている課題と大きなずれは無いように感じられました。

地区内の新たな資源の発掘に向けて、エリア穴井の事業所に地域支援についてのアンケートを実施しました。

コンビニや地元商店などで地域貢献に協力的なご意見が得られました。

Ayamuなどのインフォーマルリストの更新を随時行いました。

(3) 連携・協議の場

地域の会議には各職種で分担し継続的に参加することができました。会議の場では地域の課題やこれからの高齢社会に向けた心構えやポジティブエイジングについて必要時お話しする事ができた。協議の場が少ない地域においては、インフォーマルの活動の場に出向き同様の話を行った。

継続的に参加することで信頼関係を構築し、地域のボランティアグループの方々と共催で、地域住民に向けた「認知症サポーター養成講座」を開催し、新たなサポーターを増やすことができた。

協議体（包括レベルケア会議と同時開催）を開催し、要支援者のサービス利用の課題や地域の企業による地域支援の意向を共有することができた。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

企業との連携という、これから必要とされる福祉保健の在り方を模索する一環として、地域の企業に地域支援についての意向をアンケート調査した。エリア内の14か所の事業所のうち8事業所から回答を頂くことができた。また、アンケート手法について他のケアプラザのコーディネーターなどと共有することができた。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

- ・各地区のパイプ役を積極的に担い、2地区全体のネットワーク構築を目指して参りました。
- ・地区の徘徊ネットワーク“さがしてネット”に関しても地域の集まりに出席し、模擬訓練への参加や、メール登録を積極的に推進して参りました。この模擬訓練により、ケアプラザが地域の相談窓口であることの周知も併せて行うことができました。
- ・この地区の特色である地域の中に数多くある福祉施設と地域の方々が繋がる取り組みを実施してきました。地域密着型事業所の運営推進会議にも積極的に参加し、施設や地域の方々との関係作りに取り組みました。
- ・地域ケア会議の充実を図り、関係機関および関係者に参加を求める取り組みを行い、地域包括ケアシステムの実現に向けての活動を行いました。

② 実態把握

- ・個人情報取り扱いに注意しながら、地域の集まりへの参加や個別の訪問、また一人暮らし見守り事業の情報について民生委員や地域の医療機関・地域住民等と連携し、情報交換を行いました。その結果、困難事例の対応やサービスにつなげていない方の掘り起こしが可能となりました。
- ・可能な限り訪問を行って、地域の課題および状況の把握に努めました。見つけられた課題についてはケアプラザ全体で共有し、各事業に反映させることができました。

③ 総合相談支援

- ・民生委員児童委員定例会に定期的に参加し、顔の見える関係作りと包括のチラシを配布するなどして、総合相談窓口があることを周知してきました。
- ・地域の方から相談されやすい信頼関係を築き、適切な機関や制度・サービスにつなぎ、継続的にフォローを行ってきました。
- ・積極的なアウトリーチを心掛け、ケアプラザに来所できない方については積極的に訪問を行いました。また、新吉田あすなろ連合町内会のご協力を得て、町内会館をお借りし、出張相談会を定期開催（毎月）しました。
- ・緊急対応や困難ケースについても利用者の背景を理解し、必要に応じて区役所や関係機関との連携を図ってきました。

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- ・ 地域の方の消費者被害や振り込め詐欺被害の防止に向けて周知や相談を受け、また成年後見制度の相談など、必要に応じて関係機関への橋渡しや申し立ての支援を担ってきました。
- ・ 昨年度関心の高かった、相続・遺言についての講座を開催し、弁護士による無料個別相談会も開催、権利擁護の視点を貫いた支援に努めました。
- ・ 行政書士無料相談会や成年後見の講座を開催し、遺言や相続も含めた相談の支援をして参りました。成年後見制度の研修などに積極的に参加し、それを相談業務に反映し、業務に取り組んできました。

② 高齢者虐待への対応

- ・ 日頃から地域住民、地域関係団体、居宅介護支援事業所との連携を図り、相談・通報しやすい関係の構築をつくり、早期発見・早期対応に努めて参りました。
- ・ 地域住民への高齢者虐待防止の理解を深める広報・啓発活動を行い、虐待の相談を受けた際は、区へ報告、調査、役割分担を確認して速やかな対応を意識し、業務に取り組みました。
- ・ 「高齢者虐待防止ハンドブック」の研修をデイサービスなど事業所向けに開催しました。
- ・ 高齢者虐待防止連絡会に参加して、個別の具体的な介入方法や予防のための見守り活動等の理解を深めました。

③ 認知症

- ・ 認知症サポーター養成講座を一般市民向け・事業所向けに開催し、認知症の人やその家族を見守る地域作りを支援してきました。その中で、かえるネットやさがしてネットなどの徘徊ネットワークを周知し、啓発普及活動に取り組んできました。
- ・ 今年度も介護者のつどいを定期開催し、介護者同士の交流の場とリラックスできる場を提供し、介護を継続するための支援を行ってまいりました。毎回、講座も開催し、情報共有の場にもなり、多くの方にご参加いただきました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ・ 地区の民生委員・児童委員協議会に定期的に参加しながら、必要に応じて勉強会や他職種との交流会等を開催していきました。民生委員とケアマネジャーとの交流・情報交換会を開催し、顔の見える関係作りと連携を深めました。
- ・ 保健活動推進委員との共催による勉強会の機会を設けました。
- ・ より緊密な地域ネットワーク化を目指し、グループホームや老人保健施設・小規模多機能ホーム・地域密着型デイサービスの運営会議に参加し、施設と地域の橋渡しを行いました。
- ・ 認知症サポーター養成することで、地域に認知症の理解を広め、地域の見守りネットワーク構築して参ります。新規のキャラバンメイトの発掘にも努めました。
- ・ 地域の介護予防活動（体操教室やサロン）が求めるミニ講座（口腔ケア・栄養・認知症および介護予防）を行いました。

②医療・介護の連携推進支援

- ・ 区や各関係機関との情報の共有および連携に努めました。
- ・ 地域ケア会議の開催と協力の呼びかけを行い、医療機関との連携を強化しました。
- ・ 医療機関・薬局等に包括案内チラシや介護者の集いの年間予定表を掲示してもらえよう訪問依頼し、適時、連絡を取りながら継続的に連携できるよう体制を整えました。

③ケアマネジャー支援

- ・ LINK 主マネ（地域の居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーの連絡会）や丘の上の勉強会に参加し、顔の見える関係づくりを強化しました。ケアマネジメントの質の向上の為の、勉強会や交流会を開催しました。
- ・ 毎年行っているインフォーマルリストなどの地域情報の更新や編集を行い、ケアマネジャーに配布しました。また新吉田地区周辺のショートステイの情報を冊子にまとめ、ケアマネジャーに配布しました。
- ・ 横浜市総合保健医療センターと連携を図り、事例検討会を開催しました。認知症の困難事例について、医師に直接質問することが出来たので、ケアマネジメントに役に立つ情報を得ることが出来ました。
- ・ 港北区役所福祉保健センターと連携し、言語聴覚士によるリハビリ、連携の仕方についての勉強会を行いました。
- ・ 地域のケアマネジャーとこまめに連携を図り、積極的に同行訪問やカンファレンスに参加しました。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- ・ 地域ケア会議を定期的で開催し、地域の課題を民生委員、ボランティア等と介護保険事業所、医療機関と住民と交えて検討しました。
- ・ なるべく多くの地域の課題を検討できるよう心掛け、今年度、個別レベルは年3回、包括レベルは年2回開催しました。
- ・ 包括レベルの地域ケア会議は、要支援認定者等が利用できる公的サービス(総合事業)の内容と現状と課題について共有して、地域で支える仕組みづくりについて意見交換しました。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

- ・ 要支援者の意欲を引き出し、主体的に目標に取り組むことができる介護予防ケアマネジメントを行いました。
- ・ 介護保険のサービス以外のインフォーマルサービスも積極的にプランに取り入れました。また委託する場合にはケアマネジャーが適切なケアマネジメントが実践できるように支援しました。
- ・ 介護予防ケアマネジメントに関する勉強会を行い、ケアマネジメントの質の向上を目指しました。
- ・ 毎年行っているインフォーマルサービスのリストの更新を行い、ケアマネジャーに配布しました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- 高齢者全般を対象とした介護予防教室、男性も参加しやすい男性を対象とした介護予防教室を年12回開催し、介護予防普及啓発に取り組みました。
- ・ ボランティア育成支援として、地域の介護予防体操会やサロンを対象とした、体操リーダー養成講座を開催しました。
 - ・ 地域住民、企業と連携を図り認知症講座の開催し、認知症理解の普及啓発に努めました。
 - ・ 新たな元気づくりステーションの設立支援を行いました。
 - ・ ケアプラザ・包括の周知の為、広報紙やブログの最新情報の発信等情報発信の工夫に取り組みました。また地域の医療機関、薬局、コンビニ等にチラシの配布、掲示依頼を積極的に行いました。

5 その他

--

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

- ・担当職員及び委託業者により建物・設備等の保守点検を定期的を実施して異常の早期発見に努めました。今年度は大きな修理・修繕はなく事業執行に支障きたすようなことはありませんでした。

(2) 効率的な運営への取組について

- ・介護予防の取り組みには介護保険事業の通所介護事業の生活相談員を活用したり、通所介護事業のサービス提供内容について、ケアマネジャーや包括支援センター担当職員、生活支援コーディネーターからの相談員としての視点を反映させたり、地域の社会資源については地域活動交流コーディネーターとの連携等、毎月開催する職員会議や部門会議、リーダー会議等の中で、各部門にとらわれることなく全職員が情報共有し、5部門の機能と専門性をいかに地域に活かせるかを考察した事業運営に取り組みました。また、この中で経費についても情報が共有され、限られた予算の中で効率的な運営を行う意見交換を実施してその業務に当たりました。

(3) 苦情受付体制について

- ・苦情や要望に迅速かつ適切に対応できるように、法人の福祉サービスに関わる苦情解決運用要領の中で、法人内苦情受付担当者、第三者委員会、苦情解決責任者及び苦情解決調整委員会が設置されています。また職員の人権意識の現状把握、啓発及び研修を目的として、人権委員会を設置し本制度を補完しております。
- ・事業所長が苦情解決調整委員、地域包括支援センター社会福祉士が苦情受付担当者を担っていることを館内に掲示し、その周知に努めました。
- ・客観性の確保などご利用者の立場に配慮した苦情解決第三者委員3名を配置されており、苦情解決第三者委員に直接ご意見が言える形として、館内入口にポストを設置しました。また、館内入り口脇にご意見箱設置しましたが特にご意見はありませんでした。
- ・今年度、苦情受付書作成され苦情解決委員会に提出された事例はありませんでした。通所介護事業で、送迎車の停車位置や時間等サービス内容についての要望が7件ありました。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- ・緊急連絡網及び緊急時の対応マニュアルを活用した緊急対応はありませんでした。所長が不在時は社用電話を携帯しているため、日頃より必要に応じて、職員からの連絡、報告を受け、相談・確認のできる体制があり、その迅速な対応に努めた。
- ・6月と11月に防災訓練を実施し、通報訓練・初期消火訓練・避難誘導・救命訓練を通して、職員等の防火意識の啓発と資質の向上に努めます。また防火管理体制表に沿った訓練を繰り返し実施したことで、避難誘導時の各職員の役割分担を再確認することができました。
- ・ケアプラザ閉館時は併設施設の防犯等緊急時に備えた宿直体制と連携しました。特に問題なく経過しました。

(5) 事故防止への取組について

- ・各職員が安心して安全にご利用いただける施設を意識して、館内の危険の早期発見、早期対応に努めることで。
- ・安心安全にサービス提供ができるよう、会議等で日々のサービス提供の振り返りを行います。ヒヤリハット事例については毎月の会議で職員間の振り返りを実施して、その対策について周知致しました。
- ・安全運転の取り組みとして、引き続きスマイリングロードの運転状況の点数化のデータを活用した自己点検することで、人命に係るような事故はありませんでしたが、壁などに接触する物損事故が3件ありました。(けが等無)

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

- ・法令および横浜市の個人情報保護条例や法人の個人情報管理規程に基づいて、適切な対応に努めました。
- ・個人情報保護に関する基本方針や個人情報の利用目的について等を館内に掲示して、個人情報保護の意識を高めました。
- ・区福祉保健課課長による研修会や個人情報漏えい防止チェックシートによる自己点検での振り返りを実施して定期的な注意喚起に努めました。
- ・職員各自が、忙しくても、その取扱いルールを守るという意識を高め、ダブルチェックを実施した結果、個人情報の漏えい事故防止することができました。

(7) 情報公開への取組について

- ・運営協議会や法人機関紙「共生」やケアプラザ広報紙「てっぺんひろば」の発行、法人、区のホームページ、介護保険事業では介護サービス情報公表などにおいて、地域の皆様に、わかり易く親しみやすい手段・方法での情報公開に努めました。
- ・地域交流部門のブログも有効に活用して多くの情報を発信しました。
- ・法人の情報公開規程に基づいた情報公開に取り組み、当法人が提供するサービスを安心して利用できるよう理解と信頼の促進に取り組みました。提供するサービスについての情報開示の申請はありませんでした。

(8) 人権啓発への取組について

- ・法人倫理規定や個人情報保護・プライバシー保護の重要性について、学び振り返る勉強会を実施しました。
- ・法人の各事業所より人権委員が選出された人権委員会による人権研修が11月に開催され、障害があるご本人やご家族様のお話を直接聞く機会がありました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

毎月、生ゴミ、プラゴミ等種類別にゴミを測量して数値で示し、職員の減量化への意識を高めることでゴミの減量化・資源化に取り組みました。
夜間電力利用熱交換システム・水道水節水システム等が設置されているためこれらを有効に活用した節電、節電が経費の削減荷もつながっております。
送迎車のアイドリングストップやペットボトルの回収、裏紙の再利用等にも継続的に取り組んでおります。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

管理者1名（社会福祉士）兼務
主任介護支援専門員1名
保健師1名
社会福祉士1名
介護支援専門員 1名（非常勤）

《目標に対する成果等》

その方が持つ能力や思い等、その方の特性を踏まえた生活機能向上を目標としたケアマネジメントを実施し、地域のインフォーマルサービス等多様なサービスの中からご自身で選択できるよう支援しました。また委託する場合にはケアマネジャーが適切なケアマネジメントが実践できるよう支援します。また委託ケースには、ケアマネジャーが適切なケアマネジメントが実践できるよう助言に努めました。インフォーマルサービスのリストの更新を行い、エリア内のサービスリストも作成して、ケアマネジャーに配布しました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

実績なし

《その他（特徴的な取組、PR等）》

法人内の弁護士・臨床心理士・医師等の専門職に相談しやすい。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
186	188	186	192	190	189
10月	11月	12月	1月	2月	3月
188	186	191	189	190	196

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者 1 名（主任介護支援専門員）
 介護支援専門員 常勤専従 4 名（うち 2 名が主任介護支援専門員）

《目標に対する成果等》

その方が可能な限り居宅において、その有する能力に応じて、自立した日常生活が営むために必要な居宅サービスが適切に利用できるようなケアプランを作成するとともに、当該計画に基づいて適切な居宅サービスの提供が確保できるよう、連絡調整しました。地域ケアプラザの居宅介護支援事業者であることを自覚し、丘の上の倶楽部等でのリーダーシップを積極的に担い、事例検討会開催や地域の民生委員との交流会に参加し、その他リンク主マネによる勉強会に参加して、質の高いケアマネジメントを目指しました。また、地域の介護老人保健施設と共催で、住民対象の第 11 回目の施設見学会を開催して、参加者 20 名の方に地域にある施設の違いについてご理解いただく機会となりました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

実績なし。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

（法人ケアマネ会議）

2ヶ月に1回（奇数月）同法人4ヶ所の居宅介護支援事業所のケアマネジャーが定期的に集まり、制度解釈情報交換、事例検討、研修などを実施し、ケアマネジメントの質の向上に努めていきます。法人内で弁護士や臨床心理士、医師等の専門職に相談することができ、自己研鑽の機会が多く設定されています。

（丘の上倶楽部）

近隣の居宅介護支援事業所と協働のもと、情報交換・事例検討の場を2ヶ月に1回（偶数月）に開催している。現在は9事業所の居宅事業所が参加されている。今年度も新吉田地域ケアプラザ包括支援センターの主任ケアマネジャーを中心として

（施設見学会）

地域に数多くある福祉施設と地域の方々との橋渡し役として、地域の福祉施設の理解を深めることを目的として、地域の福祉施設見学会を近隣の介護老人保健施設と同法人のケアプラザとの企画共催で、年に1回開催しております。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
109	122	122	119	118	123
10月	11月	12月	1月	2月	3月
127	129	131	128	131	119

● 通所介護・認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- サービス計画書の作成
- 介護サービス(送迎・入浴・昼食・日常生活動作訓練)
- 健康チェック(体温・血圧・一般状態の観察)
- 生活相談の助言・指導

《実費負担(徴収する項目ごとに記載)》

- 負担割合 1割の方
 - (要介護1) 713円
 - (要介護2) 841円
 - (要介護3) 975円
 - (要介護4) 1107円
 - (要介護5) 1239円
- 食費負担 750円
- 介護職員処遇改善加算(合計単位数の2.3%)
- サービス提供体制加算(1割負担分) 6円
- 入浴介助加算(1割負担分) 54円
- キャンセル料金(食材費) 500円 (利用当日キャンセルの場合)

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 9:00～ 16:00

《職員体制》

- 管理者 1名(常勤兼務)
- 生活相談員 3名(常勤兼務)
- 看護職員(機能訓練員兼務) 4名(常勤兼務1名 非常勤兼務3名)
- 介護職員 18名(常勤兼務3名 非常勤兼務15名)
- 送迎職員 7名(非常勤兼務)
- 事務職員 1名(常勤兼務)

《目標に対する成果等》

- ・ゆったりとした自由な空間の中で自身が楽しみを見つけられるように支援しました。
- ・日常生活動作の1つ1つがリハビリと捉えて意識して残存機能の低下を防止しました。残された力で生活の喜びと自信を感じていただけるよう支援しました。
- ・職員やお仲間と安心して過ごせる社会交流の場を提供しました。
- ・個別ニーズに沿った適切なサービス提供に努めました。
- ・食前の口腔周辺の体操や食後の口腔ケアの励行により、高齢者に多い誤嚥性の肺炎の発症防止に努めました。
- ・介護者の介護負担軽減に期するサービス提供に努めました。

《その他(特徴的な取組、PR等)》

《利用者実績(延べ人数)》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
507	537	514	507	502	498
10月	11月	12月	1月	2月	3月
532	528	494	493	508	519

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- サービス計画書の作成
- 介護サービス(送迎・入浴・昼食・日常生活機能訓練)
- 健康チェック(体温・血圧・一般状態の観察)
- 生活相談の助言・指導

《実費負担(徴収する項目ごとに記載)》

- 負担割合1割負担の方
 - (事業対象者) 3,756円
 - (要支援1) 1,832円
 - (要支援2) 3,756円
- 介護職員処遇改善加算(合計単位数の2.3%)
- サービス提供体制加算(要支援1 1割負担分) 25円
(要支援2 1割負担分) 51円
- 食費負担 750円
- キャンセル料金(食材費) 500円 (利用当日キャンセルの場合)

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 10:00 ~ 15:00

《職員体制》

- 管理者 1名(常勤兼務)
- 生活相談員 3名(常勤兼務)
- 看護職員(機能訓練員兼務) 4名(常勤兼務1名 非常勤兼務3名)
- 介護職員 18名(常勤兼務3名 非常勤兼務15名)
- 送迎職員 7名(非常勤兼務)
- 事務職員 1名(常勤兼務)

《目標に対する成果等》

- ・ゆったりとした自由な空間の中で自身が楽しみを見つけられるように支援しました。
- ・日常生活動作の1つ1つがリハビリと捉えて意識して残存機能の低下防止に取り組みました。残された力で生活の喜びと自信を感じていただけるよう支援しました。
- ・職員やお仲間と安心して過ごせる社会交流の場を提供しました。
- ・個別ニーズに沿った適切なサービス提供に努めました。
- ・食前の口腔周辺の体操や食後の口腔ケアの励行により、高齢者に多い誤嚥性の肺炎の発症防止に努めました。

《その他(特徴的な取組、PR等)》

- ・入浴・排泄等の解除については同性介助をしております。
- ・曜日ごとにクラブ活動があり(手芸・書道・絵画など)楽しんで頂いています。

《利用者実績(契約者数)》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
19	18	18	19	18	17
10月	11月	12月	1月	2月	3月
16	16	19	18	17	16

平成30年度「新吉田地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書（一般会計）＜地域活動交流＞

収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	16,427,721	0	16,427,721	16,024,254	403,467	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
指定管理料充当 事業			0	0	0	
自主事業収入			0	68,445	△ 68,445	この列は入力しない
雑入	0		0	8,356	△ 8,356	
印刷代			0	8,356	△ 8,356	
自動販売機手数料			0	0	0	この列は入力しない
駐車場利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
その他 (指定管理料充当)			0	0	0	
その他 (施設使用料相当額 法人負担分)			0	0	0	
その他 (提案時控除 法人負担分)			0	0	0	
収入合計	16,427,721	0	16,427,721	16,101,055	326,666	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	10,689,000	0	10,689,000	9,024,185	1,664,815	
本俸	7,314,000		7,314,000	5,606,510	1,707,490	給与本俸
社会保険料	850,000		850,000	874,473	△ 24,473	健康保険料・厚生年金料・雇用保険料・労災保険料
手当計	2,024,000		2,024,000	2,266,451	△ 242,451	期末手当・超過勤務手当・通勤手当
健康診断費	30,360		30,360	10,003	20,357	健康診断料
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	0		0	0	0	
その他	470,640		470,640	266,748	203,892	特養手当等
事務費	640,800	0	640,800	1,472,100	△ 831,300	
旅費	30,000		30,000	27,018	2,982	市内出張交通費
消耗品費	138,000		138,000	132,347	5,653	事務用品代・コピー用紙代等
会議購入費	5,000		5,000	0	5,000	会議費
印刷製本費	0		0	0	0	
通信費	261,800		261,800	502,656	△ 240,856	電話代・後納郵便代
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分			0	0	0	
その他			0	0	0	
備品購入費	0		0	228,418	△ 228,418	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	80,000		80,000	88,695	△ 8,695	施設賠償責任保険料
職員等研修費	5,000		5,000	3,250	1,750	研修費
振込手数料	16,000		16,000	24,660	△ 8,660	月末支払振込料・給与振込料
リース料	100,000		100,000	80,476	19,524	玄関マット等使用料・会計ソフト賃借料等
手数料	0		0	0	0	
地域協力費	5,000		5,000	5,000	0	地域協力費
その他	0	0	0	379,580	△ 379,580	
事業費	1,187,829	0	1,187,829	401,437	786,392	
運営協議会経費	42,000		42,000	6,317	35,683	予算：指定額
指定管理料充当 事業	1,145,829		1,145,829	395,120	750,709	
管理費	3,054,972	0	3,054,972	3,552,811	△ 497,839	
建築物・建築設備点検	0	0	0	0	0	予算：指定額
光熱水費	891,000	0	891,000	1,451,551	△ 560,551	電気・ガス・水道料金
電気料金	442,000		442,000	0	442,000	
ガス料金	145,000		145,000	0	145,000	
水道料金	304,000		304,000	0	304,000	
清掃費	1,400,000		1,400,000	0	1,400,000	清掃業務委託費
修繕費	474,000	0	474,000	70,533	403,467	予算：指定額
機械警備費	0		0	0	0	
設備保全費	190,000	0	190,000	0	190,000	
空調衛生設備保守	50,000		50,000	0	50,000	空調衛生設備保守
消防設備保守	10,000		10,000	0	10,000	消防設備保守
電気設備保守	110,000		110,000	0	110,000	電気設備保守
害虫駆除清掃保守	5,000		5,000	0	5,000	害虫駆除清掃保守
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	15,000		15,000	0	15,000	水質検査等
共益費	0		0	0	0	
その他	99,972		99,972	0	99,972	植栽管理・発電機保守
公租公課	855,120	0	855,120	721,934	133,186	
事業所税			0	0	0	この列は入力しない
消費税	855,120		855,120	721,934	133,186	消費税
印紙税			0	0	0	この列は入力しない
その他 ()			0	0	0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分			0	0	0	この列は入力しない
当該施設分			0	0	0	この列は入力しない
二一ズ対応費			0	0	0	この列は入力しない
支出合計	16,427,721	0	16,427,721	15,172,467	1,255,254	
差引	0	0	0	928,588	△ 928,588	

自主事業収入	1,145,829		1,145,829	68,445	1,077,384	
自主事業支出	1,145,829		1,145,829	395,120	750,709	
自主事業収支	0	0	0	△ 326,675	326,675	⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0		0		0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	0	0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	0	0	

平成30年度「新吉田地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書（特別会計）＜包括・介護予防・生活支援＞

収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料（包括）	28,196,916	0	28,196,916	22,231,918	5,964,998	横浜市より
指定管理料（介護予防）	151,000		151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料（生活支援）	5,789,000		5,789,000	5,789,000	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当事業（包括）			0	0	0	
指定管理料充当事業（介護予防）			0	0	0	
指定管理料充当事業（生活支援）			0	0	0	
自主事業収入			0	0	0	
雑入	0	0	0	0	0	
印刷代			0	0	0	
自動販売機手数料			0	0	0	
駐車場利用料金収入			0	0	0	
その他（指定管理充当分）			0	0	0	
その他（提案時控除 法人負担分）			0	0	0	
収入合計	34,136,916	0	34,136,916	28,171,918	5,964,998	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	30,999,000	0	30,999,000	27,052,798	3,946,202	
本俸	17,673,000		17,673,000	14,034,196	3,638,804	給与本俸
社会保険料	4,125,000		4,125,000	3,500,063	624,937	健康保険料・厚生年金料・雇用保険料・労災保険
手当計	8,000,000		8,000,000	8,617,607	△ 617,607	期末手当・超過勤務手当・通勤手当
健康診断費	50,000		50,000	28,607	21,393	健康診断料
勤労者福祉共済掛金			0	0	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額			0	0	0	
その他	1,151,000		1,151,000	872,325	278,675	特業手当等
事務費	365,143	0	365,143	1,379,979	△ 1,014,836	
旅費	40,000		40,000	29,200	10,800	市内出張交通費
消耗品費	100,000		100,000	94,062	5,938	事務用品代・コピー用紙代等
会議賄い費	0		0	0	0	
印刷製本費	0		0	0	0	
通信費	182,143		182,143	454,967	△ 272,824	電話代・後納郵便代
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	0		0	245,806	△ 245,806	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	0		0	0	0	
職員等研修費	5,000		5,000	47,887	△ 42,887	研修費
振込手数料	10,000		10,000	15,850	△ 5,850	月末支払振込料・給与振込料
リース料	28,000		28,000	28,870	△ 870	玄関マット等使用料・会計ソフト賃借料等
手数料	0		0	0	0	
地域協力費	0		0	0	0	
その他	0	0	0	463,337	△ 463,337	
事業費	2,015,715	0	2,015,715	463,042	1,552,673	
協力医	630,000		630,000	252,000	378,000	予算：指定額
指定管理料充当 事業（包括）	925,715		925,715	43,295	882,420	予算：指定額
指定管理料充当 事業（介護予防）	151,000		151,000	142,032	8,968	予算：指定額
指定管理料充当 事業（生活支援）	309,000		309,000	25,715	283,285	予算：指定額
管理費	757,058	0	757,058	944,401	△ 187,343	
建築物・建築設備点検			0	0	0	予算：指定額
光熱水費	235,800	0	235,800	385,855	△ 150,055	電気・ガス・水道料金
電気料金	77,800		77,800	0	77,800	
ガス料金	38,000		38,000	0	38,000	
水道料金	120,000		120,000	0	120,000	
清掃費	47,000		47,000	47,000	0	清掃業務委託費
修繕費	126,000		126,000	126,000	0	予算：指定額
機械警備費	0		0	0	0	
設備保全費	46,820	0	46,820	0	46,820	
空調衛生設備保守	19,500		19,500	19,500	0	空調衛生設備保守
消防設備保守	1,900		1,900	1,900	0	消防設備保守
電気設備保守	21,000		21,000	21,000	0	電気設備保守
害虫駆除清掃保守	820		820	820	0	害虫駆除清掃保守
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	3,600		3,600	3,600	0	水質検査等
共益費	0		0	0	0	
その他	301,438		301,438	301,438	0	植栽管理・発電機保守他
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0	0	0	
消費税	0		0	0	0	
印紙税			0	0	0	
その他（ ）			0	0	0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	0	0	0	0	0	
本部分			0	0	0	
当該施設分			0	0	0	
二一ズ対応費			0	0	0	
支出合計	34,136,916	0	34,136,916	29,840,220	4,296,696	
差引	0	0	0	△ 1,668,302	1,668,302	

自主事業費収入			0	0	0	
自主事業費支出			0	211,042	△ 211,042	
自主事業収支	0		0	△ 211,042	211,042	⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入			0		0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出			0		0	使用料(横浜市への支払等)、駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支		0	0	0	0	

平成 30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

施設名: 新吉田地域ケアプラザ

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位:千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護			予防通所介護・第1号通所介護		
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引
収入	介護保険収入	2000	1828	172	24000	20430	3570	58200	48062	10138	3000	3730	-730
	その他	5800	5710	90	180	301	-121	7350	13327	-5977	0	0	0
	介護予防ケアマネジメント費	3800	3885	-85			0			0			0
	事業・負担金収入	2000	1825	175			0			0			0
	認定調査委託費			0	180	301	-121			0			0
	利用者負担金収入			0			0	6000	6609	-609			0
	利用者食費収入			0			0		5440	-5440			0
	その他			0			0	1350	1278	72			0
	収入合計(A)	7800	7538	262	24180	20731	3449	65550	61389	4161	3000	3730	-730
	支出	人件費	700	710	-10	18000	18131	-131	54997	56592	-1595		
事務費		200	500	-300	3000	1667	1333	6483	3387	3096			0
事業費				0	400	405	-5	8423	6411	2012			0
管理費				0			0	4429	7522	-3093			0
その他		2000	1825	175	0	0	0	1250	2079	270	0	0	0
利用者負担軽減額				0			0			0			0
消費税				0			0			0			0
介護予防プラン委託料		2000	1825	175			0			0			0
減価償却費				0			0		980	-980			0
その他				0			0	1250	1099	1250			0
支出合計(B)	2900	3035	-135	21400	20203	1197	75582	75991	690	0	0	0	
収支 (A) - (B)	4900	4503	397	2780	528	2252	-10032	-14602	3471	3000	3730	-730	

平成30年度 自主事業報告書

社会福祉法人横浜共生会 新吉田地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者のつどい	<p>【対象者】 介護をしている方・介護をしていた方・関心がある方</p> <p>【目的】 介護者の方々にいつでも悩みを話し合える場があるということを知っていただき、肉体的にも負担が軽くなることを目的として開催。</p> <p>【実施内容等】 福祉用具と車いすについて・高齢者の食事について・転倒と予防について・高齢者の住まいについて・排泄介護とおむつについて・介護者のためのリフレッシュ会を実施。すべての会で茶話会も行った。当日の相談役として、介護を考えるぶどうの会に協力をお願いしている。</p>	奇数月第2木曜日 6回実施
認知症サポーター養成講座	<p>【対象者】 地域の方・老人会の方</p> <p>【目的】 認知症を正しく学び、認知症になった人や家族の気持ちを理解する・認知症の特徴を理解し、よりよい対応方法がとれるようにする・徘徊に対応している機関を知り、住民が声掛けや連絡をできるようにする・キャラバンメイトの活動と必要性を周知し、キャラバンメイトの増員を目指す</p> <p>【実施内容等】 ・認知症についての講座・キャラバンメイトさんによる寸劇（認知症の方への関わり方や対応について）・キャラバンメイトさんによる朗読（認知症の方の心情を綴った詩の朗読）・キャラバンメイトの活動紹介とメイトになられた感想をインタビュー・区やCPから情報提供</p>	6月2日 2月25日 3月8日
はつらつ倶楽部	<p>【対象者】 65歳以上の介護保険を使っていない高齢者</p> <p>【目的】 地域の高齢者の介護予防を目的に、介護保険のデイサービスでのノウハウを生かしながら、認知症予防の脳トレーニングと運動を行うほか、ボランティア協力の昼食を食べて、栄養改善も念頭に置いた取り組み。</p> <p>【実施内容等】 認知症予防のプリント・コグニサイズ・昼食の提供・バスポイントからの送迎・包括支援センター職員によるミニ講座等。</p>	毎月第2日曜日 10時～14時 12回実施
出張相談会	<p>【対象者】 地域の方</p> <p>【目的】 高台にあるケアプラザまで足を運んでいただくことが難しい方向けに、平地にある会館で開催。気軽にお立ち寄りいただくこと、地域にケアプラザの存在を身近に感じていただくことを目的としている。</p> <p>【実施内容等】 新吉田あすなろ連合町内会のご協力を得て、あすなろ会館に包括の職員が出向き出張相談会を開催。</p>	毎月第三金曜日 10時～12時 11回実施

平成30年度 自主事業報告書

社会福祉法人横浜共生会 新吉田地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
はぐピョン	<p>【対象者】 未就学（主に幼稚園入園前）の子どもと保護者</p> <p>【目的】 安心して子どもを遊ばせることができる場の提供と保護者の交流・情報交換のための場の提供。また、読み聞かせや保育ボランティア育成のための機会として開催。</p> <p>【実施内容等】 多目的ホールを解放したフリースペース。ボランティアによる手遊びや歌の時間も取り入れて行う。参加者のうち、希望者はデイサービスで高齢者との交流の時間もあり。</p>	第2月・第4木 年間24回実施
さわやかクラブ	<p>【対象者】 地域の高齢者</p> <p>【目的】 身近な場で健康体操の実施、福祉保健の情報提供の機会</p> <p>【実施内容等】 運動講師による転倒骨折予防体操の実施。フットケアや包括支援センター職員による福祉保健に関する情報提供等。</p>	第1・第3月曜日 年間24回実施
丘の上の音楽会	<p>【対象者】 地域の方</p> <p>【目的】 音楽を通じた、心地よい時間の提供と、ケアプラザに足を運んでいただくことで、ケアプラザを知っていただき機能や役割をご理解いただく。</p> <p>【実施内容等】 ウクレレ演奏・サクソ演奏・トルン演奏・ジャズ演奏の4回を実施</p>	6月3日 8月26日 11月4日 3月3日
丘の上の交流会	<p>【対象者】 デイサービス利用者・地域の介護保険施設の利用者</p> <p>【目的】 地域で介護保険を活用しながら生活されている方々が、安心して外出できる場としてイベントを実施。また、ケアプラザ等で活動しているボランティアの活躍の場として開催。</p> <p>【実施内容等】 サマーニャによるベリーダンス（2回）・民謡グループ楽による演奏会・いきいきクラブによるバラエティーショー（2回）・蛇腹隊によるバンドネオン演奏会・ヴォーカルアンサンブルを開催</p>	4月23日 7月16日 8月25日 11月12日 12月24日 2月23日 3月18日

平成30年度 自主事業報告書

社会福祉法人横浜共生会 新吉田地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
こうほく☆からふる	<p>【対象者】 個別支援級に通う小学生～障がいがある高校生</p> <p>【目的】 ケアプラザ職員やボランティアと一緒に楽しい時間を過ごす。障がい者に理解あるボランティアの育成。</p> <p>【実施内容等】 オービィ横浜（中学生）とボランティア 小田原城（高校生）とボランティア 上野動物園（小学生）とボランティア</p>	<p>6月23日 10月27日 2月23日</p>
事業名	目的・内容	実施時期・回数
こうほく☆なつとも	<p>【対象者】 障がいがある学齢期の方</p> <p>【目的】 夏休み期間中、保護者以外の人と楽しい時間を過ごす</p> <p>【実施内容等】 スタッフやボランティアと一緒にオリジナル井作成や工作、音楽体験等を行った。</p>	<p>事前交流会7月21日 (両コースとも)</p> <p>1日活動コース 7月25日</p> <p>2日活動コース 7月31日・8月1日</p>
事業名	目的・内容	実施時期・回数
粋な男の健康講座	<p>【対象者】 介護予防に関心がある男性</p> <p>【目的】 ロコモ予防体操と栄養講座・口腔衛生講座の参加を通じて、粋な体作りを目指す。</p> <p>【実施内容等】 8回の体操講座と口腔衛生・栄養改善講座を各1回実施。体操講座では、毎日取り組む運動宿題があり、活動日以外でも健康な体作りを気にかけた生活を目指して頂いた。</p>	<p>8月～3月の 毎月第3火曜日</p>
事業名	目的・内容	実施時期・回数
粋な男の料理教室	<p>【対象者】 料理に関心がある男性</p> <p>【目的】 調理実習を通じて介護予防に役立つ栄養等の知識を知っていただく。男性の仲間づくりを行う。</p> <p>【実施内容等】 調理ボランティアの協力を得ながら、4つのグループごとに調理実習を行ってもらう。完成した料理は同じグループごとに試食を行う。</p>	<p>8月29日 10月31日 1月30日</p>

平成30年度 自主事業報告書

社会福祉法人横浜共生会 新吉田地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
高齢者虐待防止 ハンドブック研 修	<p>【対象者】 地域の方・介護事業所の方</p> <p>【目的】 港北区版高齢者虐待ハンドブックの周知と活用の仕方を伝えるため開催。</p> <p>【実施内容等】 地域の方にも周知をしたが、今年度は、介護事業所向けにのみ開催となった。事例をもとに虐待リスク評価票を記入してもらい、虐待疑いがあれば報告義務があることを理解してもらった、</p>	10月23日・30日 11月29日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
体操ボランティア 育成講座	<p>【対象者】 地域の体操リーダーを目指す方、体操に関心がある方</p> <p>【目的】 高齢者の身体的特徴を理解し、地域で活躍する体操リーダー養成を目指す。</p> <p>【実施内容等】 座学での高齢者の身体的特徴、体操の実技、デイサービスでの体操指導実習などを行った。</p>	1月17日 1月31日 2月7日 2月14日 2月21日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
上手な花の育て方	<p>【対象者】 地域の方</p> <p>【目的】 花の育て方を「土」「肥料」「病害虫」などテーマごとに学び、日々の生活に役立てる。ケアプラザで活動中の園芸ボランティアの活動に参加して下さる方が増えることを目指す。</p> <p>【実施内容等】 5日間でテーマごとの植物の育て方を学ぶ。また、デイサービスのベランダを彩る花の寄せ植えや管理を通じ、ボランティア活動に関心を持っていただく。</p>	2月5日 2月19日 3月5日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
おはなし会ワー クショップ	<p>【対象者】 未就学児の子どもが参加するおはなし会の企画運営に関心がある方。絵本や子供が好きな方。</p> <p>【目的】 絵本やおはなし会を通じて、子育てや子供へのボランティア活動に関心がある方が増えること。ケアプラザや地域の子育てサロンで活動して下さる方が増えること。</p> <p>【実施内容等】 絵本や紙芝居の読み方や手遊びの紹介と、グループに分かれておはなし会1回分の企画。ケアプラザの子育てサロンでの実施。</p>	11月1日 11月5日 11月8日 11月12日 11月22日

平成30年度 自主事業報告書

社会福祉法人横浜共生会 新吉田地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
共生まつり	<p>【対象者】 地域の方</p> <p>【目的】 日頃、ケアプラザや法人の活動にご協力いただいている方にお祭りを通じて楽しんでいただく。日頃、活動している方々にご協力いただきながら楽しいお祭りを実施する。</p> <p>【実施内容等】 法人各施設と協力しながら、イベントや模擬店、健康チェック等を実施する。</p>	9月30日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
医者が教えるPPK生活の秘訣～運動編～	<p>【対象者】 地域の方</p> <p>【目的】 実際に体を動かしてもらいながら講義を行い、健康寿命の延伸を目指す。</p> <p>【実施内容等】 ケアプラザ協力医の先生による講義と理学療法士による簡単にできる体操実施と講座の開催。</p>	12月8日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
福祉保健セミナー 介護予防入門講座 コグニサイズ体験会	<p>【対象者】 地域の方</p> <p>【目的】 介護予防に関心を持っていただくこと、コグニサイズで楽しく頭と体を刺激する体験をしていただくこと。</p> <p>【実施内容等】 保健活動推進員と協力し講座を実施。健康についての講話とデイサービスの指導者によるコグニサイズ体験会を開催。</p>	11月26日
事業名	目的・内容	実施時期・回数
盲導犬に会いに行こう	<p>【対象者】 小学校3年生～中学生とその保護者</p> <p>【目的】 盲導犬の活動を通じ、視覚障がい者への理解を深めるとともに、福祉保健について関心を持っていただく。</p> <p>【実施内容等】 日本盲導犬協会神奈川訓練センターの協力で、盲導犬の活動や育成についての話を聞くとともに、障がい当事者の方のお話を聞かせて頂く。</p>	1月19日

平成30年度 自主事業報告書

社会福祉法人横浜共生会 新吉田地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
もしもに備える「老後の金銭管理と後見の活用」講座	<p>【対象者】 地域の方</p> <p>【目的】 老後の金銭管理についての関心が高く、そのニーズを満たすためと成年後見の普及啓発という目的で行う。</p> <p>【実施内容等】 行政書士による成年後見や家族信託等をテーマに講座を開催し、高齢者期になってからの生活に備える心構えをして頂く。</p>	1月26日
施設見学会	<p>【対象者】</p> <p>【目的】 地域の方々が、将来の住まいや過ごし方を考える際の参考になるよう、地域の施設の協力を得て開催。</p> <p>【実施内容等】 4台の送迎者量に分かれて、近隣の施設を見学。今年度は「新横浜老人保健施設 カメリア」「介護老人福祉施設 新吉田」「グループホームカメリア壺番館・式番館」「新吉田地域ケアプラザ」を見学。</p>	3月16日
出張福祉講座	<p>【対象者】 地域の方</p> <p>【目的】 老人会等、人が集まる場所で講座を行い、介護予防の普及啓発を行う。</p> <p>【実施内容等】 「介護保険制度と介護予防について」をテーマに、簡単な脳の体操も含めて、介護予防の啓発を行った。</p>	2月15日 2月17日
キャラバンメイトのつどい	<p>【対象者】 キャラバンメイトの方</p> <p>【目的】 地域のキャラバンメイトが地域の企業やボランティア団体等に出向き、認知症サポーター養成講座を行うことができるよう支援する。</p> <p>【実施内容等】 今年度の認知症サポーター養成講座を振り返り、来年度の講座開催に向けて、情報共有と支援を行った。</p>	2月1日